

大学生の映画への親しみ：黒澤明に焦点を置いて

鈴木，右文
九州大学大学院言語文化研究院：教授：言語情報学

<https://doi.org/10.15017/19180>

出版情報：言語文化論究. 26, pp.37-47, 2011-02-07. 九州大学大学院言語文化研究院
バージョン：
権利関係：

大学生の映画への親しみ

—— 黒澤明に焦点を置いて ——

鈴木 右 文

1. 総合科目「映画の世界」

筆者は1996年以来、九州大学全学教育の中で、同僚教員等と共同で担当する、総合科目「映画の世界」のオーガナイザーを務めてきた。これは、筆者の知的生活を豊かにしてくれた映画への御礼の意味を込めてのことである。というのは、筆者は大学学部を卒業してからある作品を偶然に鑑賞して映画の面白さに気がつき、それ以来映画を見るようになったのだが、きっかけさえあれば、それまで映画を見る習慣のなかった人でも映画を見るようになるものであり、映画の幸せを感じるきっかけを若い方々に与えることができると考えたからである。

2. これまでの論考

「映画の世界」は、前節で述べたような理念のもとに始めた授業であるが、筆者も共同担当の方々も、学問として映画やその教育方法を研究する専門家ではないので、筆者は、授業を進める一方で、この授業の存在意義を客観的に明らかにし、その運営内容を考えていこうと思い、これまでに3本の書き物を著してきた。

まず鈴木（1999）では、日本では教育課程の中でも世間の通り相場としても、映画を芸術のひとつと位置づける気運に欠け、そのために大学生が映画を知的生活の一部と見なすに至っていないということを主張した。

続いて鈴木（2002）では、大学生が、芸術としての評価の高い作品よりも売れる作品、古い名画よりも同時代の作品を志向する傾向にあることを、受講者へのアンケートをもとに、数字ではっきりと確認した。

こういう状態であることが数字としてはっきりしたからこそ、大学教養教育の一角を「映画の世界」が占めることに意味があるというのが、それ以来の筆者の主張である。

また、映画教育などという分野も恐らくなく、手探りの授業担当が続いており、受講者にどのようなレポートを課すのかを考えたとき、自らも執筆して手本を示す必要を感じ、慣れない作品論に挑んだのが鈴木（2007）であった。

3. 本稿の目的

第2節で示した取り組みの一環として、筆者は今回、前回鈴木（2002）のために実施したアンケートから10年近くたった今も、大学生の映画に対する知識が変わっていないのかどうかを確認することとし、2010年度前期の授業で特集した黒澤明監督についても焦点を当てて、新ためてアンケートを実施することとした。

その結果わかったことは、日本をはじめどの地域の過去の名画も相変わらず見られておらず、ア

アメリカ映画から日本映画への顕著なシフトが見られるがそれも「売れる」作品に限られており、また、黒澤明というビッグネームも他の監督も、この10年で知名度が急速に下落しているということである。こうしたことを考察し、「映画の世界」の方針である（日本映画中心の）過去の名画路線が誤っていないことを主張する。

4. アンケートの結果と分析

今回のアンケートは、2010年度前期総合科目「映画の世界：黒澤明特集3」の受講者79名に対して、授業期間の終わりの7月21日に無記名方式で実施された。比較の対象とするデータは、2001年度後期総合科目「映画の世界：比較作品論」の受講者201名に対して、授業期間のはじめの10月17日に無記名方式で実施されたアンケートである¹⁾。以下本稿で取り上げる設問を順に検討していく。

【1】年に何本ほど映画館で映画を鑑賞しますか。ひとつ選んでください。

表1：映画館での年間鑑賞本数

| 2001年実施：201人 | | 2010年実施：79人 | |
|--------------|-------|-------------|-----------|
| 9人 | 4.5% | 0本 | 4人 5.1% |
| 107人 | 53.2% | 1－3本 | 43人 54.4% |
| 47人 | 23.4% | 4－6本 | 16人 20.3% |
| 5人 | 2.5% | 7－9本 | 6人 7.6% |
| 32人 | 15.9% | 10本以上 | 8人 10.1% |

両アンケートの母数がかなり違うが、映画をどのくらいの頻度で見ている集団かということで比べてみると、どちらも似たような分布を示しており、ほぼ均質な集団と言ってよく、従って様々なデータの比較の際にも、人数が異なることはあまり問題ではないであろうと予想される。

【2】それはどの国・地域の映画が多いですか。ひとつ選んでください。

表2：映画館で鑑賞する作品の製作国・地域

| 2001年実施：253人 ²⁾ | | 国・地域 | 2010年実施：79人 | |
|----------------------------|-------|-------|-------------|-------|
| 171人 | 67.6% | アメリカ | 27人 | 34.2% |
| 44人 | 17.4% | 日本 | 46人 | 58.2% |
| 27人 | 10.7% | ヨーロッパ | 3人 | 3.8% |
| 11人 | 4.3% | アジア | 1人 | 1.3% |
| 0人 | 0.0% | その他 | 0人 | 0.0% |

表2で目立つことは、2001年の受講者が見る作品はアメリカ映画が圧倒的だったのに対し、2010年の受講者では日本映画とアメリカ映画が逆転していることである。「映画の世界」は日本映画に特に力を入れているのだが、この逆転が大学生に日本映画重視の好ましい変化があったからかという、残念なことにそうではなさそうである。一般社団法人日本映画製作者連盟の発表している統計数値によると、2000年の公開本数が邦画282本外国映画362本であったのに対し、2009年では邦画448本外国映画314本となっており、日本映画が6割近くも本数を増やしている³⁾。また同統計によると、興行収入で比較すると、日本映画が31.8%のシェアから56.9%にまで2倍近くに伸ばしている³⁾。このことからすれば、世間の動向に連動しているのであって、特に大学生が日本映画を芸術として

質的に重視するようになったというわけでもなさそうである。

【3】自信をもって製作国を知っている場合は選んでください。(回答時には国名を伏せた)

表3：過去の名画がどのくらい鑑賞されているか

| 2001年：201人 | | 作 品 名 | 日本公開 | 2010年：79人 | |
|------------|------|--------------------|------|-----------|------|
| 14人 | 6.7% | さらば我が愛：霸王別姫（中国） | 1994 | 4人 | 5.1% |
| 4人 | 2.0% | ともだちのうちはどこ？（イラン） | 1993 | 1人 | 1.3% |
| 0人 | 0.0% | 非情城市（台湾） | 1990 | 0人 | 0.0% |
| 0人 | 0.0% | 処女の泉（スウェーデン） | 1961 | 0人 | 0.0% |
| 4人 | 2.0% | 天井桟敷の人々（仏） | 1952 | 1人 | 1.3% |
| 3人 | 1.5% | 自転車泥棒（伊） | 1950 | 4人 | 5.1% |
| 0人 | 0.0% | 西便制：風の丘を越えて（韓国） | 1994 | 0人 | 0.0% |
| 15人 | 7.5% | セントラル・ステーション（ブラジル） | 1999 | 3人 | 3.8% |
| 0人 | 0.0% | 大地のうた（インド） | 1966 | 0人 | 0.0% |
| 5人 | 2.5% | 晩春（日本） | 1949 | 1人 | 1.3% |

この質問を2001年に投げかけたときは、同時代のアメリカ映画に偏る鑑賞行動を数字で示すために、アメリカ以外の過去の名画を取り上げたのだが、10年たった2010年でも基本的に傾向は変わらないと言える。上記中国映画とブラジル映画の2001年の数値が高いのは、当時は比較的近い年代の作品だったからであろう。

【4】見たことがあると自信を持って言えるものを選んでください。

表4：前年のベストテン邦画をどれだけ鑑賞しているか³⁾

| 日本映画2000キネマ旬報 ベストテン：2001年201人 | 人数 | 順位 | 日本映画2009キネマ旬報 ベストテン：2010年79人 | 人数 |
|----------------------------------|-------------|----|---------------------------------|------------|
| 顔 | 5 | 1 | ディア・ドクター | 5 |
| ナビィの恋 | 7 | 2 | ヴィヨンの妻～桜桃とタンポポ～ | 2 |
| 御法度 | 17 | 3 | 剣岳：点の記 | 3 |
| 十五才学校Ⅲ | 10 | 4 | 愛のむき出し | 2 |
| バトル・ロワイヤル | 65 | 5 | 沈まぬ太陽 | 4 |
| 三文役者 | 1 | 6 | 空気人形 | 1 |
| スリ | 2 | 7 | ウルトラミラクルラブストーリー | 2 |
| 独立少年合唱団 | 1 | 8 | サマーウォーズ | 15 |
| 雨あがる | 14 | 9 | 誰も守ってくれない | 5 |
| はつ恋 | 16 | 10 | 風が強く吹いている | 3 |
| 見た受講者の割合の平均 | 138 6.9% | 計 | 見た受講者の割合の平均 | 42 5.3% |

表5：前年の興行収入の多い邦画をどれだけ鑑賞しているか³⁾

| 日本映画2000興行収入 ベストテン：2001年201人 | 人数 | 順位 | 日本映画2009興行収入 ベストテン：2010年79人 | 人数 |
|---------------------------------|-------------|----|---|--------------|
| ポケットモンスター 結晶塔の帝王 | 3 | 1 | ROOKIES卒業 | 13 |
| ホワイトアウト | 39 | 2 | 劇場版ポケットモンスター ダイヤモンド・パール アルセウス超克の時空へ ⁴⁾ | 3 |
| ドラえもん のび太の太陽王伝説 | 18 | 3 | 20世紀少年<最終章>ぼくらの旗 | 16 |
| 名探偵コナン 瞳の中の暗殺者 | 27 | 4 | エヴァンゲリオン劇場版：破 | 17 |
| 2000年春東映アニメフェア | 1 | 5 | アマルフィ女神の報酬 | 3 |
| ゴジラ2000ミレニアム | 7 | 6 | 名探偵コナン漆黒の追跡者 (チェイサー) | 17 |
| リング0 / ISOLA | 36 | 7 | ごくせん THE MOVIE | 6 |
| 太陽の法 エル・カンターレへの道 | 1 | 8 | 余命1ヶ月の花嫁 | 6 |
| どら平太 | 5 | 9 | ヤッターマン (映画) | 11 |
| GTO | 21 | 10 | クローズZEROII | 15 |
| 見た受講者の割合の平均 | 158 7.9% | 計 | 見た受講者の割合の平均 | 107 13.5% |

表6：前年のベストテン外国映画をどれだけ鑑賞しているか³⁾

| 外国映画2000キネマ旬報 ベストテン：2001年201人 | 人数 | 順位 | 外国映画2009キネマ旬報 ベストテン：2010年79人 | 人数 |
|----------------------------------|--------------|----|---------------------------------|------------|
| スペース・カウボーイ | 24 | 1 | グラン・トリノ | 3 |
| オール・アバウト・マイ・マザー | 13 | 2 | 母なる証明 | 0 |
| あの子を探して | 1 | 3 | チェンジリング | 2 |
| 初恋のきた道 | 4 | 4 | チェイサー | 1 |
| ストレイト・ストーリー | 20 | 5 | レスラー | 1 |
| アメリカン・ビューティー | 45 | 6 | 愛を読むひと | 3 |
| マルコピッチの穴 | 28 | 7 | アンナと過ごした4日間 | 1 |
| グラディエーター | 76 | 8 | 戦場でワルツを | 3 |
| ダンサー・イン・ザ・ダーク | 52 | 9 | スラムドック \$ ミリオネア | 10 |
| ペパーミント・キャンディ | 0 | 10 | イングロリアス・バスターズ | 0 |
| 見た受講者の割合の平均 | 263 13.1% | 計 | 見た受講者の割合の平均 | 24 3.0% |

表7：前年の興行収入の多い外国映画をどれだけ鑑賞しているか³⁾

| 外国映画2000興行収入 ベストテン：2001年201人 | 人数 | 順位 | 外国映画2009興行収入 ベストテン：2010年79人 | 人数 |
|---------------------------------|--------------|----|--------------------------------|--------------|
| M-I : 2 | 79 | 1 | ハリー・ポッター謎のプリンス | 30 |
| シックスセンス | 112 | 2 | レッドクリフPart II 未来への最終決戦 | 24 |
| グリーンマイル | 40 | 3 | マイケルジャクソン THIS IS IT | 5 |
| パーフェクトストーム | 46 | 4 | WALL E ウォーリー | 7 |
| トイ・ストーリー2 | 47 | 5 | 2012 | 6 |
| エンド・オブ・デイズ | 40 | 6 | 天使と悪魔 | 9 |
| ターザン | 23 | 7 | ターミネーター4 | 10 |
| ジャンヌ・ダルク | 79 | 8 | マンマ・ミーア! | 6 |
| スチュアート・リトル | 14 | 9 | 地球が静止する日 | 8 |
| ワールド・イズ・ナット・イナフ | 29 | 10 | ベンジャミン・バトン 数奇な運命 | 14 |
| 見た受講者の割合の平均 | 509 25.3% | 計 | 見た受講者の割合の平均 | 119 15.1% |

2001年度のアンケートでは、専門家が高品質な作品を選んだ『キネマ旬報』誌のベストテンにおいて、日本映画は平均6.9%（表4左）、外国映画は平均13.1%（表6左）の受講者が見たことがあるのに対し、興行収入が高いいわゆる「売れた」映画については、日本映画は平均7.9%（表5左）、外国映画は平均25.3%（表7左）の受講者が見たことがわかる。ここで見られる傾向は、「売れる」外国映画が最もよく見られているということである。これに対し2010年度のアンケートでは、『キネマ旬報』ベストテンにおいて、日本映画は平均5.3%（表4右）、外国映画は平均3.0%（表6右）の受講者が見たことがあるのに対し、「売れた」映画については、日本映画は平均13.5%（表5右）、外国映画は平均15.1%（表6右）の受講者が見たことがわかる。両アンケートの結果を比較するに、2010年では、「売れた」映画がよく見られていることには変わりはないが、「売れた」日本映画が増え、外国映画は「売れた」ものかどうかにかわりなく減っているということである。日本映画へのシフトは、問2表2で見たように、日本の映画の観客一般に成り立つことなので、大学生に限った特徴というわけではなく、また、アンケートで増えている日本映画が「売れる」映画であって、質の高い作品ではないことに注目すれば、過去現在の芸術性の高い名画を授業で取り上げていくことの意義は相変わらずあると言えるであろう。

【5】見たことがあると自信を持って言えるものを選んでください。（回答時に作品年代は伏せた）

表8：2000年の名画の鑑賞者の割合

| 外国映画2000 キネマ旬報ベストテン 上位5作品 | 2001 人数 | 2010 人数 | 順位 | 日本映画2000 キネマ旬報ベストテン 上位5作品 | 2001 人数 | 2010 人数 |
|---------------------------------|-------------|------------|----|---------------------------------|--------------|-------------|
| スペース・カウボーイ | 24 | 4 | 1 | 顔 | 5 | 1 |
| オール・アバウト・マイ・マザー | 13 | 1 | 2 | ナビイの恋 | 7 | 1 |
| あの子を探して | 1 | 1 | 3 | 御法度 | 17 | 1 |
| 初恋のきた道 | 4 | 3 | 4 | 十五才学校Ⅲ | 10 | 3 |
| ストレイト・ストーリー | 20 | 0 | 5 | バトル・ロワイヤル | 65 | 18 |
| 見た受講者の割合の平均 | 62人 3.1% | 9人 1.1% | 計 | 見た受講者の割合の平均 | 104人 5.2% | 14人 1.8% |

表9：1990年の名画の鑑賞者の割合

| 外国映画1990 キネマ旬報ベストテン 上位5作品 | 2001 人数 | 2010 人数 | 順位 | 日本映画1990 キネマ旬報ベストテン 上位5作品 | 2001 人数 | 2010 人数 |
|---------------------------------|-------------|------------|----|---------------------------------|-------------|------------|
| 非情城市 | 1 | 0 | 1 | 櫻の園 | 1 | 1 |
| 霧の中の風景 | 0 | 0 | 2 | 少年時代 | 24 | 3 |
| フィールド・オブ・ドリームズ | 25 | 1 | 3 | 死の棘 | 0 | 0 |
| 冬冬の夏休み | 0 | 1 | 4 | 夢 | 4 | 0 |
| ドゥ・ザ・ライト・シング | 2 | 0 | 5 | バタアシ金魚 | 4 | 1 |
| 見た受講者の割合の平均 | 28人 1.4% | 2人 0.3% | 計 | 見た受講者の割合の平均 | 33人 1.6% | 5人 0.6% |

表10：1980年の名画の鑑賞者の割合

| 外国映画1980 キネマ旬報ベストテン 上位5作品 | 2001 人数 | 2010 人数 | 順位 | 日本映画1980 キネマ旬報ベストテン 上位5作品 | 2001 人数 | 2010 人数 |
|---------------------------------|-------------|-------------|----|---------------------------------|-------------|------------|
| クレイマー、クレイマー | 52 | 6 | 1 | ツイゴイネルワイゼン | 4 | 0 |
| ルートヴィヒ神々の黄昏 | 0 | 0 | 2 | 影武者 | 7 | 2 |
| 地獄の黙示録 | 9 | 2 | 3 | ヒポクラテスたち | 0 | 0 |
| 大理石の男 | 0 | 0 | 4 | 神様のくれた赤ん坊 | 0 | 0 |
| マンハッタン | 2 | 3 | 5 | 遙かなる山の呼び声 | 2 | 0 |
| 見た受講者の割合の平均 | 63人 3.1% | 11人 1.4% | 計 | 見た受講者の割合の平均 | 13人 0.6% | 2人 0.3% |

表11：1970年の名画の鑑賞者の割合

| 外国映画1970 キネマ旬報ベストテン 上位5作品 | 2001 人数 | 2010 人数 | 順位 | 日本映画1970 キネマ旬報ベストテン 上位5作品 | 2001 人数 | 2010 人数 |
|---------------------------------|-------------|------------|----|---------------------------------|------------|------------|
| イージー・ライダー | 11 | 2 | 1 | 家族 | 1 | 0 |
| サテリコン | 0 | 0 | 2 | 戦争と人間 | 1 | 0 |
| Z | 1 | 0 | 3 | どですかでん | 1 | 0 |
| 明日に向かって撃て！ | 13 | 3 | 4 | エロス+虐殺 | 0 | 1 |
| M★A★S★H (マッシュ) | 1 | 0 | 5 | 地の群れ | 0 | 0 |
| 見た受講者の割合の平均 | 26人 1.3% | 5人 0.6% | 計 | 見た受講者の割合の平均 | 3人 0.1% | 1人 0.1% |

表12：1960年の名画の鑑賞者の割合

| 外国映画1960 キネマ旬報ベストテン 上位5作品 | 2001 人数 | 2010 人数 | 順位 | 日本映画1960 キネマ旬報ベストテン 上位5作品 | 2001 人数 | 2010 人数 |
|---------------------------------|-------------|-------------|----|---------------------------------|------------|-------------|
| チャップリンの独裁者 | 24 | 6 | 1 | おとうと ⁵⁾ | 2 | 3 |
| 甘い生活 | 0 | 0 | 2 | 黒い画集・あるサラリーマンの証言 | 0 | 0 |
| 太陽がいっぱい | 21 | 3 | 3 | 悪い奴ほどよく眠る ⁶⁾ | 0 | 7 |
| ロベレ將軍 | 0 | 0 | 4 | 笛吹川 | 0 | 0 |
| 大人は判ってくれない | 1 | 3 | 5 | 秋日和 | 0 | 0 |
| 見た受講者の割合の平均 | 46人 2.3% | 12人 1.5% | 計 | 見た受講者の割合の平均 | 2人 0.1% | 10人 1.3% |

表13：1950年の名画の鑑賞者の割合

| 外国映画1950 キネマ旬報ベストテン | 2001 人数 | 2010 人数 | 順位 | 日本映画1950 キネマ旬報ベストテン | 2001 人数 | 2010 人数 |
|------------------------|------------|------------|----|------------------------|-------------|------------|
| 自転車泥棒 | 5 | 3 | 1 | また逢う日まで | 0 | 0 |
| 情婦マノン | 0 | 0 | 2 | 帰郷 | 2 | 0 |
| 三人の妻への手紙 | 0 | 0 | 3 | 暁の脱走 | 0 | 0 |
| 無防備都市 | 0 | 0 | 4 | 執行猶予 | 0 | 0 |
| 赤い靴 | 2 | 0 | 5 | 羅生門 ⁷⁾ | 30 | 2 |
| 見た受講者の割合の平均 | 7人 0.3% | 3人 0.4% | 計 | 見た受講者の割合の平均 | 32人 1.6% | 2人 0.3% |

表8～13は、10年ずつ過去にさかのぼった『キネマ旬報』ベストテンの上位5本についての数値を示している。表8の2001年度受講者の数値だけは同時代の作品についての回答となるが、他の数値は過去の名画についての数値ということになる。2001年度の受講者にとって、10年前については外国映画平均で1.4%、日本映画平均で1.6%の受講者の鑑賞率（表9）、20年前については外国映画平均で3.1%、日本映画平均で0.6%の鑑賞率（表10）、30年前については外国映画平均で1.3%、日本映画平均で0.1%の鑑賞率（表11）、40年前については外国語映画平均で2.3%、日本映画平均で0.1%の鑑賞率（表12）、50年前については外国語映画平均で0.3%、日本映画平均で1.6%の鑑賞率（表13）だったのに対し、2010年度の受講者にとっては、10年前については外国映画平均で1.1%、日本映画平均で1.8%の鑑賞率（表8）、20年前については外国映画平均で0.3%、日本映画平均で0.6%の鑑賞率（表9）、30年前については外国映画平均で1.4%、日本映画平均で0.3%の鑑賞率（表10）、40年前については外国映画平均で0.6%、日本映画平均で0.1%の鑑賞率（表11）、50年前については外国映画平均で1.5%、日本映画平均で1.3%の鑑賞率（表12）であり、すべて総合すると、2001年度の受講者で平均1.2%、2010年度の受講者で平均0.9%であるから、ほぼこの10年で変わってはいないと言える。相変わらず過去の名画を見ていないということである。

【6】この授業を知る前の時点で、黒澤明監督につきどれがもっともあてはまりましたか。ひとつだけ選んでください。（2010年度のみ実施）

表14：黒澤明の知名度

| | | |
|------------------------------------|-----|-------|
| 全く名前も知らなかった | 1人 | 1.3% |
| 名前だけは聞いたことがあったが映画監督とは知らなかった | 2人 | 2.5% |
| 名前を聞いたことだけはあり、映画監督と知っていた | 39人 | 49.4% |
| 作品を見たことはなかったが作品名やシーンが思い浮かぶ位には知っていた | 22人 | 27.8% |
| 作品を最低1本は見たことがあった | 8人 | 10.1% |
| 作品を複数本見たことがあった | 5人 | 6.3% |
| 作品を多数見たことがあった | 0人 | 0.0% |
| 作品をすべて見たことがあった | 0人 | 0.0% |

2001年度のアンケートでは「最低限作品名やシーンが何か思い浮かぶ位には知っており、名前を聞いたことがあるだけではない」のかどうかとだけ尋ねており、201人中174人（86.6%）が肯定した。それに対し表14（2010年度の受講者）でこれにあたるのは、下から5番目までの項目の合計だと考えられるのだが、79人中35人（44.3%）しかおらず、2001年度からの10年で黒澤明の知名度が急速に下落したと言えるのではないだろうか。黒澤明最後の作品は1993年公開の「まあだだよ」で、逝去したのは1998年であるから、2001年度の受講者と2010年度の受講者とで、大きく隔たりがあるのは仕方がないが、このようにして偉大な監督でも、時間の経過とともに知られなくなっていくということが、厳然たる事実として突き付けられる。

【7】この授業を知る前の時点でのことについてお伺いします。次の黒澤作品のうち、見たことがあるものを選んでください。(2010年度のみ実施)

表15：黒澤作品がどれだけ鑑賞されているか（人数）

| | | | | | | | |
|----------|----|----------|----|-------------|-----------|----------|---|
| 姿三四郎 | 0 | 一番美しく | 0 | 續姿三四郎 | 1 | 虎の尾を踏む男達 | 0 |
| 我が青春に悔なし | 0 | 素晴らしき日曜日 | 0 | 酔いどれ天使 | 0 | 静かなる決闘 | 1 |
| 野良犬 | 2 | 醜聞 | 0 | 羅生門 | 2 | 白痴 | 0 |
| 生きる | 11 | 七人の侍 | 11 | 生きものの記録 | 0 | 蜘蛛巣城 | 8 |
| どん底 | 0 | 隠し砦の三悪人 | 4 | 悪い奴ほどよく眠る | 7 | 用心棒 | 2 |
| 椿三十郎 | 2 | 天国と地獄 | 9 | 赤ひげ | 7 | どですかでん | 0 |
| デルス・ウザーラ | 0 | 影武者 | 2 | 乱 | 7 | 夢 | 0 |
| 八月の狂詩曲 | 1 | まあだだよ | 0 | 見た受講者の割合の平均 | 2.6人／3.2% | | |

その黒澤明の監督作品については、1本あたり受講者平均3.2%の鑑賞率なので⁸⁾、表8～13に比べるといくぶんかましなのだが、それにしても、日本映画の第一人者世界のクロサワにしてこのような状態である。これには危機感を持たざるを得ない。ここから始めて日本映画の世界に誘うということで、ここ3年「映画の世界」で黒澤明特集を組んできたのは適切だったと言えよう。

【8】次の監督につき、最低限作品やシーンが思い浮かぶ程度に知っている人を選んでください。

表16：黒澤以外の監督の作品がどれだけ鑑賞されているか

| 2001は 201人中 | 2001 人数 | 2010 人数 | 2010は 79人中 | 2001 人数 | 2010 人数 | 2001は 201人中 | 2001 人数 | 2010 人数 | 2010は 79人中 | 2001 人数 | 2010 人数 |
|--------------------|------------|------------|---|------------|------------|----------------|------------|------------|---------------|------------|------------|
| 岩井俊二 | 54 | 2 | 内田吐夢 | 1 | 0 | 小川紳介 | 0 | 0 | 神代辰巳 | 0 | 1 |
| 篠田正浩 | 1 | 0 | 田坂具隆 | 0 | 1 | 原一男 | 0 | 0 | 松山善三 | 0 | 0 |
| 吉田喜重 | 0 | 0 | 市川崑 | 12 | 8 | 浦山桐郎 | 0 | 0 | 小栗康平 | 1 | 0 |
| 新藤兼人 | 4 | 0 | 勅使河原宏 | 4 | 0 | 原田真人 | 0 | 0 | 宮崎駿 | 189 | 63 |
| 吉村公三郎 | 0 | 0 | 市川準 | 1 | 2 | 大島渚 | 91 | 1 | 小津安二郎 | 17 | 5 |
| 黒沢清 | 15 | 2 | 周防正行 | 53 | 9 | 竹中直人 | 99 | 18 | 東陽一 | 0 | 0 |
| 森田義光 | 5 | 0 | 伊丹十三 | 121 | 1 | 大林宣彦 | 44 | 2 | 北野武 | 171 | 5 |
| 神山征二郎 | 1 | 0 | 鈴木清順 | 6 | 0 | 寺山修司 | 19 | 1 | 深作欣二 | 36 | 10 |
| 柳町光男 | 0 | 0 | 今井正 | 3 | 0 | 大森一樹 | 2 | 0 | 木下恵介 | 2 | 0 |
| 小林正樹 ⁹⁾ | 1 | 0 | 相米慎二 | 13 | 0 | 成瀬巳喜男 | 0 | 0 | 降旗康男 | 7 | 1 |
| 山田洋次 | 98 | 33 | 今村昌平 | 27 | 2 | 岡本喜八 | 2 | 1 | 熊井啓 | 0 | 0 |
| 崔洋一 | 9 | 3 | 高畑勲 | 61 | 7 | 野村芳太郎 | 1 | 0 | 溝口健二 | 8 | 2 |
| 山本薩夫 | 0 | 0 | 2001年度計 1177人、受講者1人あたり平均5.9人の監督を知っている 2010年度計 160人、受講者1人あたり平均2.0人の監督を知っている | | | | | | | | |

上記黒澤以外の主な監督の認知度がこの10年で3分の1近くに減っており、いかに同時代の作品にしか親しんでいないかがよくわかる。ここまでの考察から、逝去した伊丹十三や大島渚の数値が落ちているのはわかるが、信じられないくらいなのは、現役の北野武や大林宣彦も既に過去の人なのかということである。こうしてかなりの速度で人や作品が過去のものとなっている。過去の名画を扱うことは、やはり意義深いと言わねばなるまい。

【9】この授業についてお伺いします。これから先について高まった気持ちについてあてはまるものを選んでください。(2010年度のみ実施)

表17：今後の映画に関する受講者の態度

| | よくあてはまる | どちらかという あてはまる | どちらとも 言えない | あまりあて はまらない | 全くあて はまらない |
|------------|-----------|------------------|---------------|----------------|---------------|
| 映画も見ていこう | 50人/63.3% | 23人/29.1% | 3人/3.8% | 1人/1.3% | 2人/2.5% |
| 日本映画も見ていこう | 35人/44.3% | 29人/36.7% | 2人/2.5% | 4人/5.1% | 2人/2.5% |
| 古い日本映画も見よう | 26人/32.9% | 27人/34.2% | 13人/16.5% | 10人/12.7% | 2人/2.5% |
| 黒澤作品も見ていこう | 28人/35.4% | 28人/35.4% | 12人/15.2% | 8人/10.1% | 2人/2.5% |

日本の過去の名画を扱って「映画の世界」の内容が適切だとしても、効果をあげていると言えるのかということが問題になるが、表17を見る限り、まずまずだと言えるのではないだろうか。

【10】授業の方法としてはどれがよいと思いますか。ひとつ選んでください。(2010年度のみ実施)

表18：授業方法に対する要望

| | |
|-------------------------------------|-----------|
| 作品は上映せず、日本映画の通史を講義するのがよい | 3人/3.8% |
| 作品を短い主要シーンだけ上映しながら、日本映画の通史を講義するのがよい | 3人/3.8% |
| 時代や種類や監督の異なる数本の作品を完全上映して解説を加えるのがよい | 32人/40.5% |
| 時代か種類か監督を統一して数本の作品を完全上映して解説を加えるのがよい | 39人/49.4% |

授業は、表18の最下行の内容で毎年実施している¹⁰⁾。その方法に最も支持が集まっているのだから、その方法を継続することが適切であろうと思われる。

5. 終わりに

本稿では、「映画の世界」の受講者に対して実施された2回のアンケートの比較から、黒澤明にも焦点を当てながら、相変わらず過去の名画が見られていない実態を確認し、黒澤明以下過去の監督に対する知識が急速に下落している危機的状態を見た。そして、それに対する処方箋としての「映画の世界」が持っている日本中心の過去の名画路線に誤りはないことを主張した。今後もこの授業が、受講者にとって、映画という知的世界の扉をたたきかけになってくれれば、これ以上の幸せはない。

注

*二名の査読者の方々から貴重な御指摘をいただいた。紙面を借りて御礼申し上げます。

1) 査読者のお一人から、授業期間の終わりに実施したアンケートとはじめに実施したアンケートの比較は、厳密には難があるとの指摘をいただいた。2010年前期のアンケートでは、授業で扱った黒澤明についての項目が含まれており、授業を受ける前の時点でのことについての回答を求めたものの、授業で黒澤作品が扱われたことが影響を与えた可能性は否定できない。表15について付された注9)を参照されたい。

- 2) 2001年実施分では複数回答があり、のべ253人になっている。
- 3) 一般社団法人日本映画製作者連盟 HP (<http://www.eiren.org/toukei/index.html>, アクセス日2010年8月31日) による。
- 4) アンケート時に誤って「劇場版ポケットモンスター」「ダイヤモンド・パール アルセウス超克の時空へ」を別々の映画として尋ねた。前者は8人、後者は3人であったが、前者は過去のシリーズのどれでもよいと解釈された恐れがあるため、後者を表に掲載する数値と見なした。
- 5) 「おとうと」は2010年にも同名の別作品があり、2010年の数値についてはそちらのつもりで挙げたと推測できる。
- 6) 2010年の回答者は授業で鑑賞したため67人が見たと回答しており、問7での数値を代用した。
- 7) 2010年の回答者は後の授業回で鑑賞することになっていたため、先に見ておいた受講者がいると思われ、6人が見たと回答したが、問7での数値を代用した。
- 8) 査読者のお一人から、「生きる」「天国と地獄」「悪い奴ほどよく眠る」「赤ひげ」「乱」「蜘蛛巣城」については授業で鑑賞したものを誤って含めた受講者もいたのではないかとの指摘をいただいた。確かにそれらの作品の数値が他の作品のものよりも高くなっている。御指摘のとおりとすれば、ますます黒澤作品が見られていないと言えることになる。
- 9) 2010年度のアンケートでは、小林正樹を桂樹と誤記したが、結果はほとんど変わらないと思われる。
- 10) 詳細は筆者 HP (<http://www.flc.kyushu-u.ac.jp/~yubun/movieclass.html>) を参照。

参 考 文 献

- 鈴木右文 (1999) 「大学教養教育における映画教育の意義」『言語文化論究』(九州大学大学院言語文化研究院) 第10号、147-60頁.
- 鈴木右文 (2002) 「大学一般教育における優秀な映画鑑賞者の育成のために」『言語文化論究』(九州大学大学院言語文化研究院) 第15号、33-44頁.
- 鈴木右文 (2007) 「佐々部清監督映画作品における「感謝」について」『言語文化論究』(九州大学大学院言語文化研究院) 第22号、49-57頁.

University Students' Familiarity with Movies

— With Special Reference to Kurosawa Akira —

Yubun SUZUKI

The author started to organize a course on movies in the framework of general education of Kyushu University in the year 1996 and has ever since provided Kyushu University students with an opportunity to have more access to movies with established reputation, especially Japanese works produced in the past. The organizer, however, was not a specialist on the cinema or film education. Therefore, he has constantly tried to consider in an objective manner whether it is truly beneficial to popularize artistic movies, especially Japanese earlier screen productions, among Japanese university students.

The author conducted a questionnaire survey in this regard in the year 2001 focusing on the familiarity of the students of the movie course with the Japanese film classics in the past years and claimed that the young students at that time were quite ignorant of the basics of the history of the Japanese cinema. He repeated the survey in the year 2010, giving due attention to Akira Kurosawa, in order to compare the two sets of data. The comparison indicates a distinctive shift from foreign films to Japanese movies, which could probably be better ascribed to the decrease of foreign movies and the increase of Japanese ones released in Japan during the past decade than to the college students' enhanced movie appreciation. More importantly, the comparison also tells us that the students' familiarity with Japanese film classics has suffered a sharp drop. It is the case that even Kurosawa is less known now. The results lead us, therefore, to the conclusion that it is worthwhile to continue on the movie course devoted to time-honored films which have been added to the glorious history of Japanese cinema.